

第1回薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂に関する専門研究委員会

薬学教育モデル・コア・カリキュラムへの
意見

公益社団法人日本薬剤師会
常務理事 長津 雅則

薬剤師・薬局を取り巻く現状

「患者のための薬局ビジョン」

～「門前」から「かかりつけ」、そして「地域」へ～

健康サポート機能

健康サポート
薬局

- ☆ 国民の**病気の予防**や**健康サポート**に貢献
 - ・要指導医薬品等を適切に選択できるような供給機能や助言の体制
 - ・健康相談受付、受診勧奨・関係機関紹介等

高度薬学管理機能

- ☆ **高度な薬学的管理ニーズ**への対応
 - ・専門機関と連携し抗がん剤の副作用対応や抗HIV薬の選択などを支援等

かかりつけ薬剤師・薬局

服薬情報の一元的・継続的把握

- ☆ **副作用や効果**の継続的な確認
- ☆ **多剤・重複投薬**や**相互作用の防止**
- ICT(電子版お薬手帳等)を活用し、
 - ・患者がかかる**全ての医療機関の処方情報を把握**
 - ・一般用医薬品等を含めた服薬情報を一元的・継続的に把握し、薬学的管理・指導

24時間対応・在宅対応

- ☆ **夜間・休日、在宅医療**への対応
 - ・**24時間**の対応
 - ・**在宅患者**への薬学的管理・服薬指導
- ※ 地域の薬局・地区薬剤師会との連携のほか、へき地等では、相談受付等に当たり地域包括支援センター等との連携も可能

医療機関等との連携

☆疑義照会・
処方提案

☆副作用・服薬状況
のフィードバック

・医療情報連携ネット
ワークでの情報共有

☆医薬品等に関する相談
や健康相談への対応
☆医療機関への受診勧奨

平成27年10月公表 厚生労働省「患者のための薬局ビジョン」より

薬剤師・薬局を取り巻く現状

かかりつけ薬剤師・薬局機能

- 服薬情報の一元的・継続的管理
 - ・患者がかかっているすべての医療機関や服用薬の一元的管理
 - ・お薬手帳の一冊化・集約化
- 24時間対応・在宅対応
 - ・開局時間外の薬の副作用等の随時の電話相談
 - ・夜間・休日の在宅患者の症状あった時などの調剤の実施
- 医療機関等との連携
 - ・必要に応じ処方医に対しての疑義照会や処方提案の実施
 - ・調剤後も患者の状態を把握し、処方医へのフィードバックや残薬管理・服薬指導を行う
 - ・医薬品等の相談や健康相談に対応し、医療機関に受診勧奨する他、地域の関係機関と連携

健康サポート機能

- 関係機関とあらかじめ連携体制を構築
- 人員配置・運営 (相談対応や関係機関への紹介に関する研修を終了した薬剤師の常駐)
- 医薬品等の取扱い・設備 (要指導医薬品の供給機能や助言の体制、プライバシーに配慮した相談窓口など)

高度薬学管理機能

- 高度な知識・技術と臨床経験を有する薬剤師の配置
- 専門医療機関との間で新たな治療薬や個別症例等に関する勉強会などを共同で継続的に開催するなどの取組みの実施
- がんやHIV、難病のような疾患を有する患者に対して高度な薬学的管理への対応を行う

平成27年10月公表 厚生労働省「患者のための薬局ビジョン」より

薬剤師・薬局を取り巻く現状

令和3年6月30日公表

薬剤師の養成等

- 養成（入学定員、薬剤師確保）
 - ・ 将来的に薬剤師が過剰になると予想される状況下では、入学定員数の抑制も含め教育の質の向上に資する、適正な定員規模のあり方や仕組みなどを早急に検討し、対応策を実行すべき。
 - ・ 併せて、薬剤師の確保を含め、偏在を解消するための方策を検討することが重要であり、地域の実情に応じた効果的な取組を検討すべき。
 - ・ 今後も薬剤師の業務実態の把握、継続的な需給推計を行い、地域偏在等の課題への対応も含めた検討に活用すべき。
- 薬学教育（カリキュラム、教員、卒業までの対応）
 - ・ 薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しを検討する際には、本とりまとめの今後の薬剤師が目指す姿を踏まえたカリキュラムとすべき。
 - ・ カリキュラムは、臨床に関する内容、在宅医療への対応のための介護分野の内容、OTCの対応や健康サポート機能への取組により地域住民の健康増進を進めるための内容、感染症や治療薬・ワクチンに係る内容、コミュニケーション能力に係る内容についても、さらに充実すべき。
 - ・ 研究能力を持つ薬剤師の育成も重要であり、国家試験対策中心の学習に偏重することなく、6年間を通じた研究のカリキュラムを維持すべき。
 - ・ カリキュラムを踏まえた教育に対応できる教員の養成と質の向上が重要である。最新の臨床現場の理解と研究能力を有することが必要である。
 - ・ 修学状況（進級率、標準修業年限内での国家試験合格率など）等の課題を有する大学が存在する状況を改善するため、これらの情報の適切な公表、薬学教育評価機構による第三者評価結果の効果的な活用、評価結果のわかりやすい公表等を行うべき。
- 国家試験
 - ・ 定期的に合格基準・出題基準の見直し要否の検討を医道審議会で行うべき。
 - ・ 国家試験の基礎科目は薬学共用試験のCBT（知識を問う問題）の充実により軽減し、臨床に関する問題を中心とすることを検討すべき。

薬剤師の業務・資質向上

- 薬局及び医療機関の薬剤師の業務（調剤業務、ICT対応）
 - ・ 対人業務の充実と対物業務の効率化のためには、薬剤師しかできない業務に取り組むべきであり、それ以外の業務は機器の導入や薬剤師以外の者による対応等を更に進めるため、医療安全の確保を前提に見直しを検討することが必要である。（本検討会で引き続き検討）
 - ・ 電子処方箋や電子版お薬手帳等のICT化による情報共有、薬局・医療機関等の間での連携方策に取り組むべき。
- 薬剤師の資質向上（卒後研修、生涯研修・専門性）
 - ・ 臨床実践能力の担保のためには、薬学教育での実習・学習に加えて、免許取得直後の臨床での研修が重要であり、卒前（実務実習）・卒後で一貫した検討が必要である。研修制度の実現に向けて、卒前の実務実習との関係性を含め、研修プログラムや実施体制等について検討すべき。
 - ・ 生涯研修として薬剤師認定制度認証機構（CPC）の認証を受けた研修機関が実施する研修を活用すべき。
 - ・ 学会等で行われている薬剤師の専門性の認定に関しては、第三者による確認など、認定の質の確保について検討が望まれる。

令和3年6月公表 厚生労働省 薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会取りまとめ（提言概要）より

今後の薬剤師に求められること

- 対人業務の強化
 - 服用薬等の一元的な管理(相互作用や重複投薬の防止)
 - 服用中の薬剤の継続的な管理(服薬後のフォローアップ)
 - 疑義照会・処方提案の充実
 - 地域の関係職種との連携
 - 在宅医療の充実(終末期の対応含む)
 - 一般用医薬品等をはじめとするあらゆる医薬品の相談応需体制などの充実

- 高度薬学管理
 - 抗がん剤、抗HIV薬などの知識の充実
 - 最新のガイドライン・レジメンの理解
 - 新薬への対応
 - 地域の薬局との連携

- ICTや調剤機器の利活用
 - 電子処方箋・電子お薬手帳などによる情報共有
 - オンライン服薬指導

- その他
 - 新興・再興感染症への対応

現行のカリキュラムにおける薬局実務実習の課題等

日本薬剤師会実施の「令和元年度第I・II期薬局実務実習受入薬局アンケート」で抽出された主な課題等

調査対象:

令和元年度第I・II期[2/25～5/12・5/27～8/11]に実務実習生を受入れた日本薬剤師会の会員薬局

回答者: 調査対象薬局の認定実務実習指導薬剤師

回答期間: 令和元年8月13日(火)～9月30日(月)

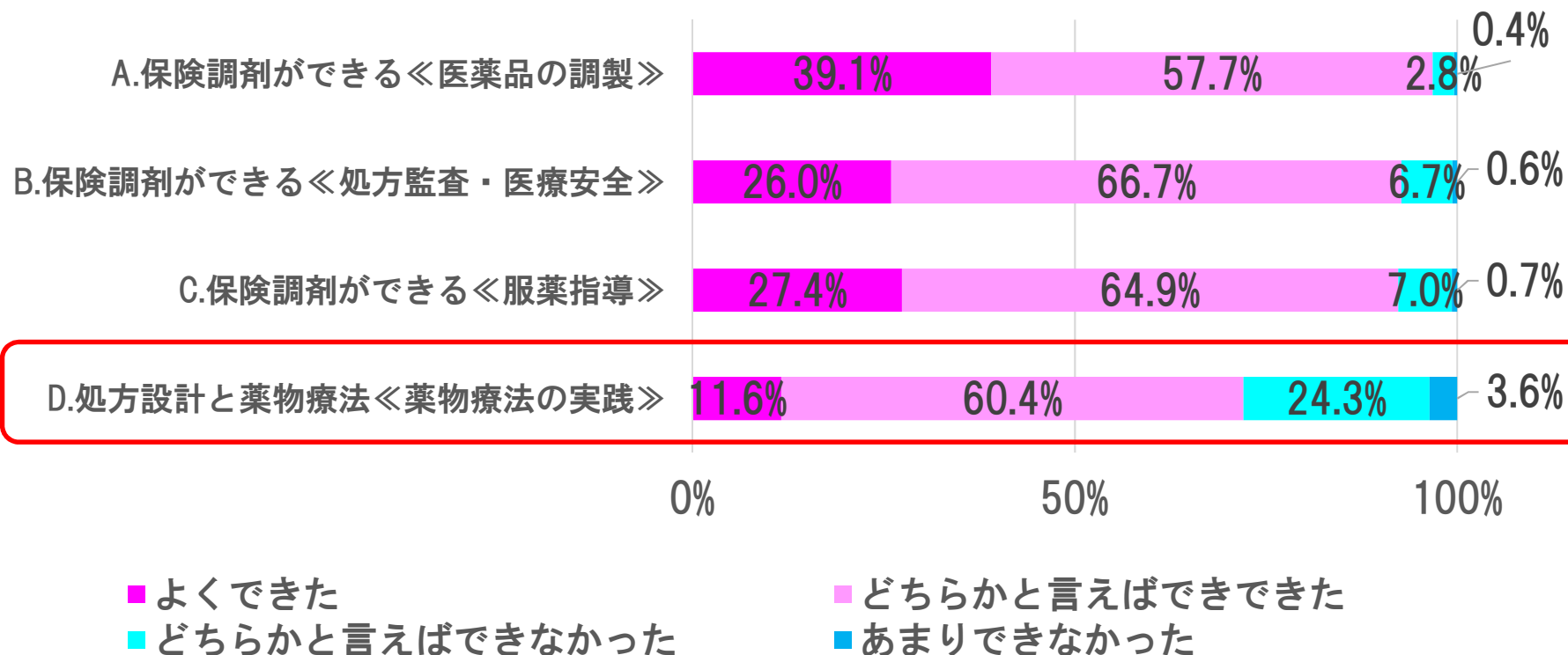
回答数: 2482件(回答率57.6%)

- 8疾患につき「実施できないものがあった」との回答が複数あったが、**8疾患についてとらわれすぎず**、実習生が様々な疾患に幅広く対応することを本旨としていることを、指導薬剤師に理解してもらう必要がある
- (現行カリキュラムの実習は)参加・体験を重視する・パフォーマンスを評価するという点で、これまでよりも実習生の意欲や、コミュニケーションの得手不得手、基本的な知識・技能の差など、**実習生の「キャラクター」が実習の進め方に相当影響する**との趣旨のコメントが複数あった。
- 「処方設計と薬物療法」「在宅医療」「セルフメディケーション支援」「地域で活躍する薬剤師(学校薬剤師、災害時活動・・・等)」については、参加・体験型の実習の実施につき、**「どちらかと言えばできなかった」「あまりできなかった」との回答が調剤関連の実習と比べると高く、とりわけ「セルフメディケーション支援」では両回答の合計が3割を超えていた。**(スライド9参照)
- 本実習では、大学が主体となった薬局・病院の連携が「薬学実務実習に関するガイドライン」に掲げられているが、(連携について)**「どちらかと言えばできなかった」「あまりできなかった」との回答が併せて7割以上あり「あまりできなかった」のみで約半数を占めた。**(スライド11参照)

現行のカリキュラムにおける薬局実務実習の課題等

令和元年度 第 I・II 期 薬局実務実習の実施状況と今後の課題 — 受入薬局アンケート調査より — 概略評価について

Q3.「日薬手引き2018」では、薬局業務に沿って、保険調剤・薬物療法を以下のA～Dの領域に分けてパフォーマンスレベル表を作成しました。以下の領域について、概略評価が実施できましたか？

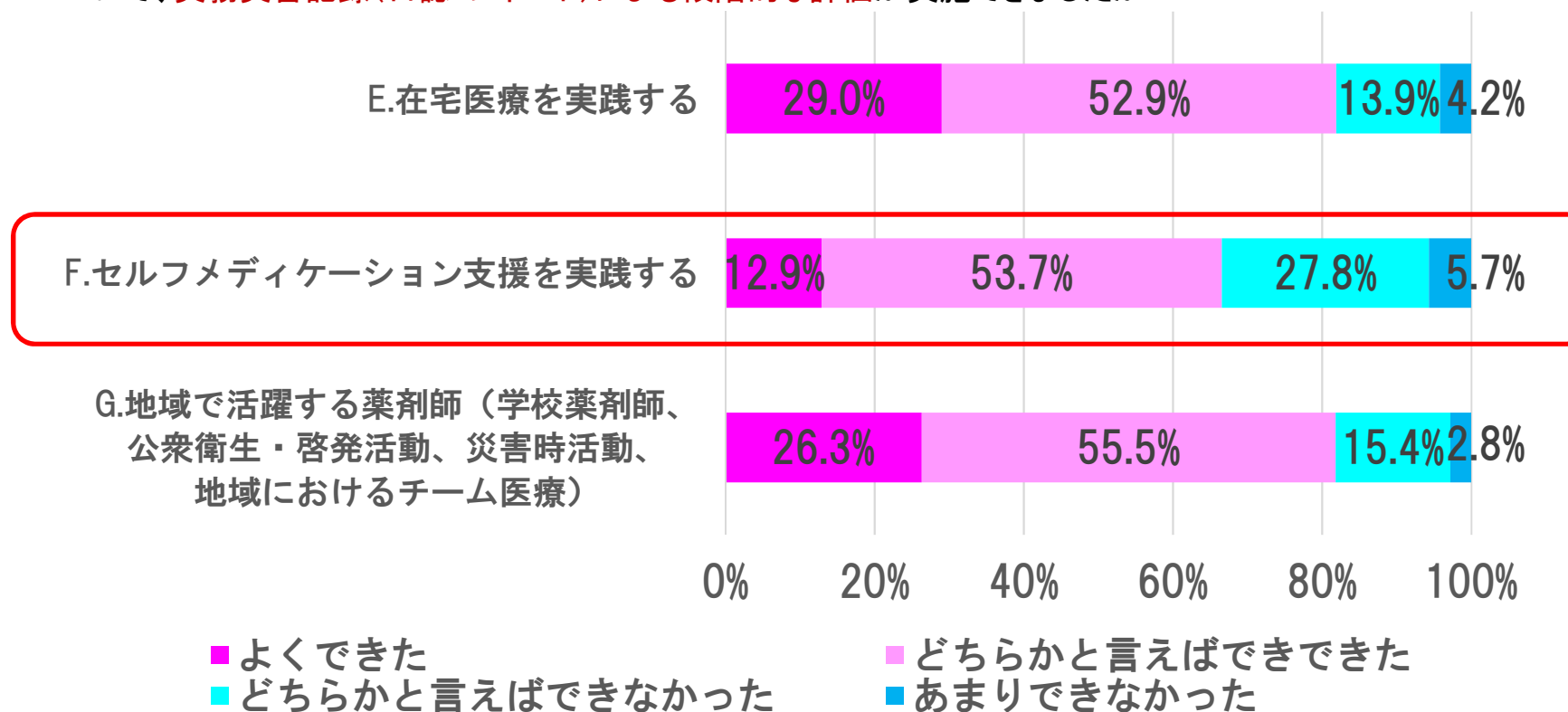


令和元年度 第 I・II 期 薬局実務実習の実施状況と今後の課題
— 受入薬局アンケート調査より —

現行のカリキュラムにおける薬局実務実習の課題等

令和元年度 第 I・II 期 薬局実務実習の実施状況と今後の課題 — 受入薬局アンケート調査より — 実務実習記録の評価について

Q5.「日薬手引き2018」では、薬局業務に沿って、実践的分野を以下のE～Gの領域としました。以下の領域について、実務実習記録(日誌・レポート)による段階的な評価が実施できましたか？

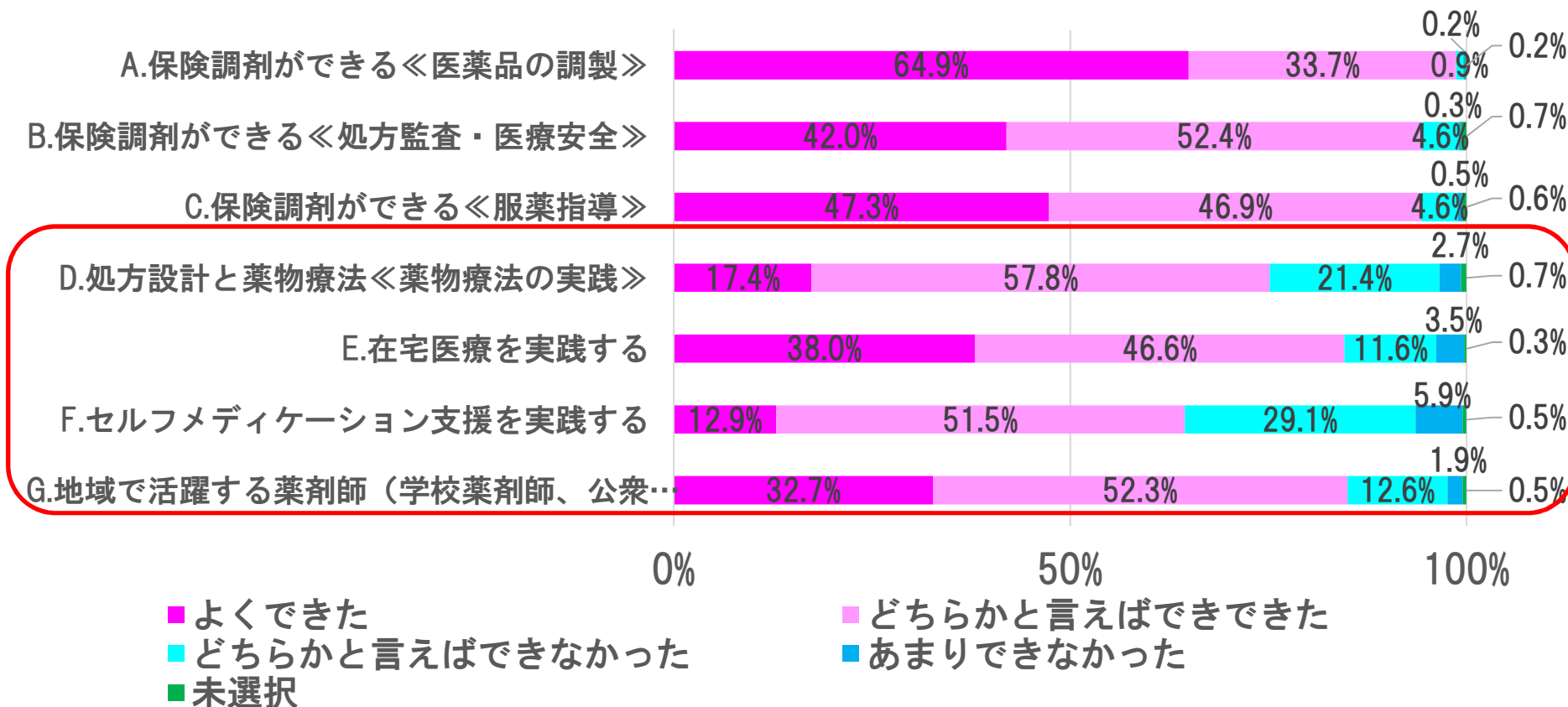


令和元年度 第 I・II 期 薬局実務実習の実施状況と今後の課題
— 受入薬局アンケート調査より —

現行のカリキュラムにおける薬局実務実習の課題等

令和元年度 第I・II期 薬局実務実習の実施状況と今後の課題 ー受入薬局アンケート調査よりー 参加・体験型の実習について

Q11.参加・体験型の実習が実施できましたか？以下の領域について、それぞれご記入ください。

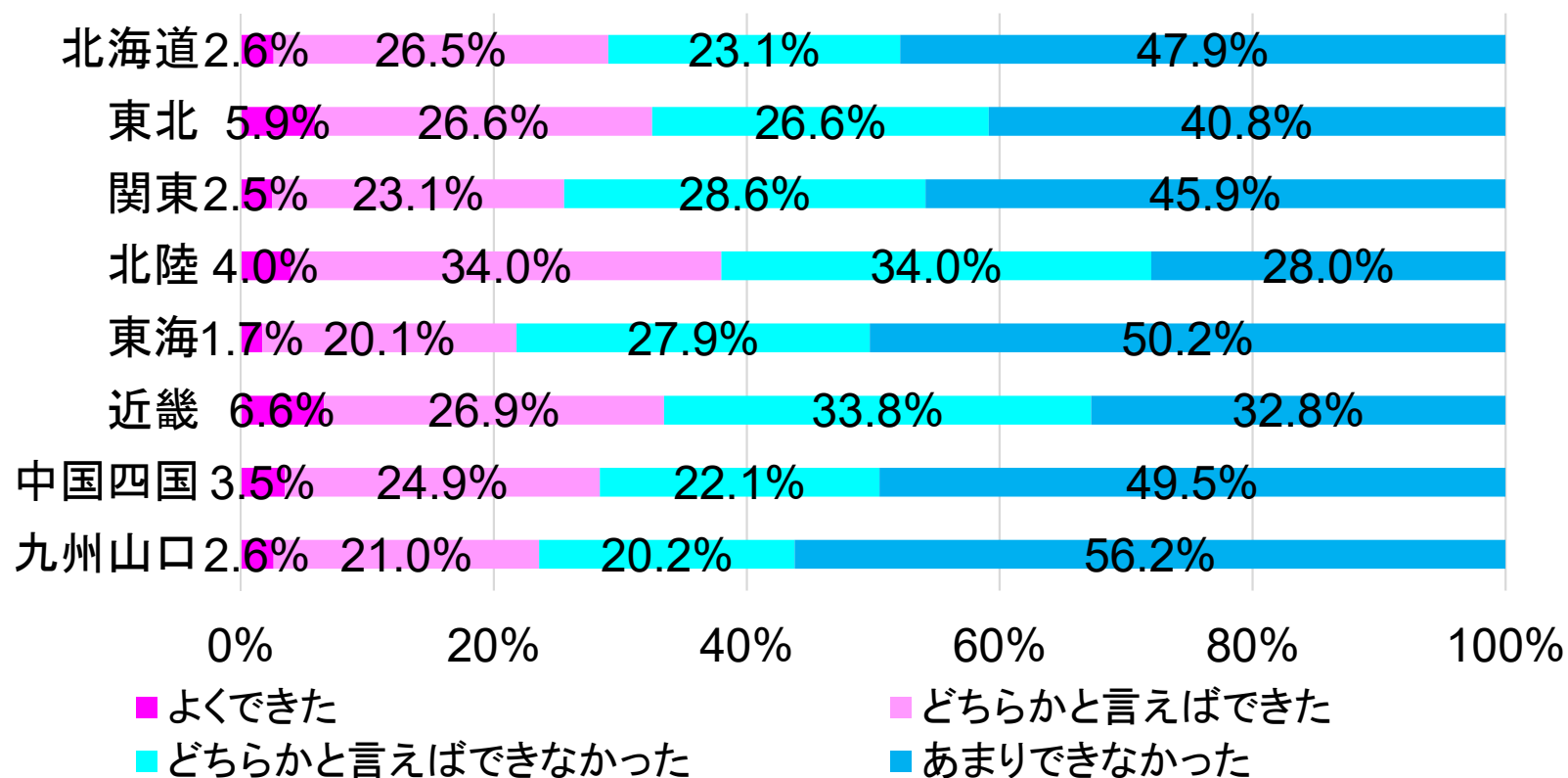


令和元年度 第I・II期 薬局実務実習の実施状況と今後の課題
 ー受入薬局アンケート調査よりー

現行のカリキュラムにおける薬局実務実習の課題等

令和元年度 第Ⅰ・Ⅱ期 薬局実務実習の実施状況と今後の課題 －受入薬局アンケート調査より－ 大学主体の病院との連携について（地区別）

Q15.改訂コアカリに基づく実習において、大学が主体となって、病院との連携がとれましたか？

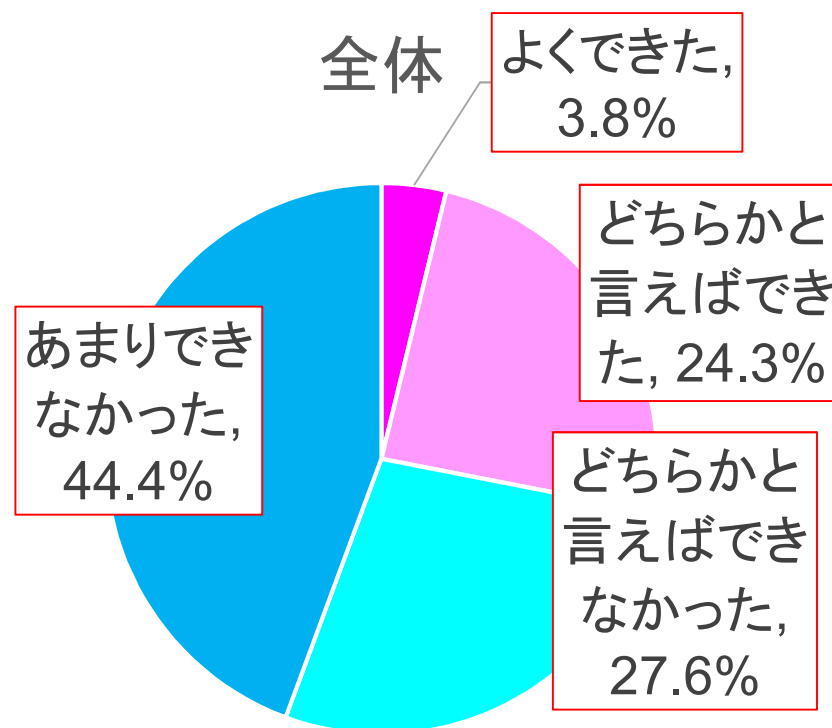


令和元年度 第Ⅰ・Ⅱ期 薬局実務実習の実施状況と今後の課題
－受入薬局アンケート調査より－

現行のカリキュラムにおける薬局実務実習の課題等

令和元年度 第Ⅰ・Ⅱ期 薬局実務実習の実施状況と今後の課題 ー受入薬局アンケート調査よりー 大学主体の病院との連携について

Q15.改訂コアカリに基づく実習において、大学が主体となって、病院との連携がとれましたか？



令和元年度 第Ⅰ・Ⅱ期 薬局実務実習の実施状況と今後の課題
ー受入薬局アンケート調査よりー

薬剤師のための予防接種研修プログラムの検討

薬剤師によるワクチンの接種については、「今後の接種の進捗状況を見つつ、必要に応じて検討」とされた。

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を推進するための各医療関係職種の専門性を踏まえた対応の在り方等に関する検討会(令和3年5月31日開催)

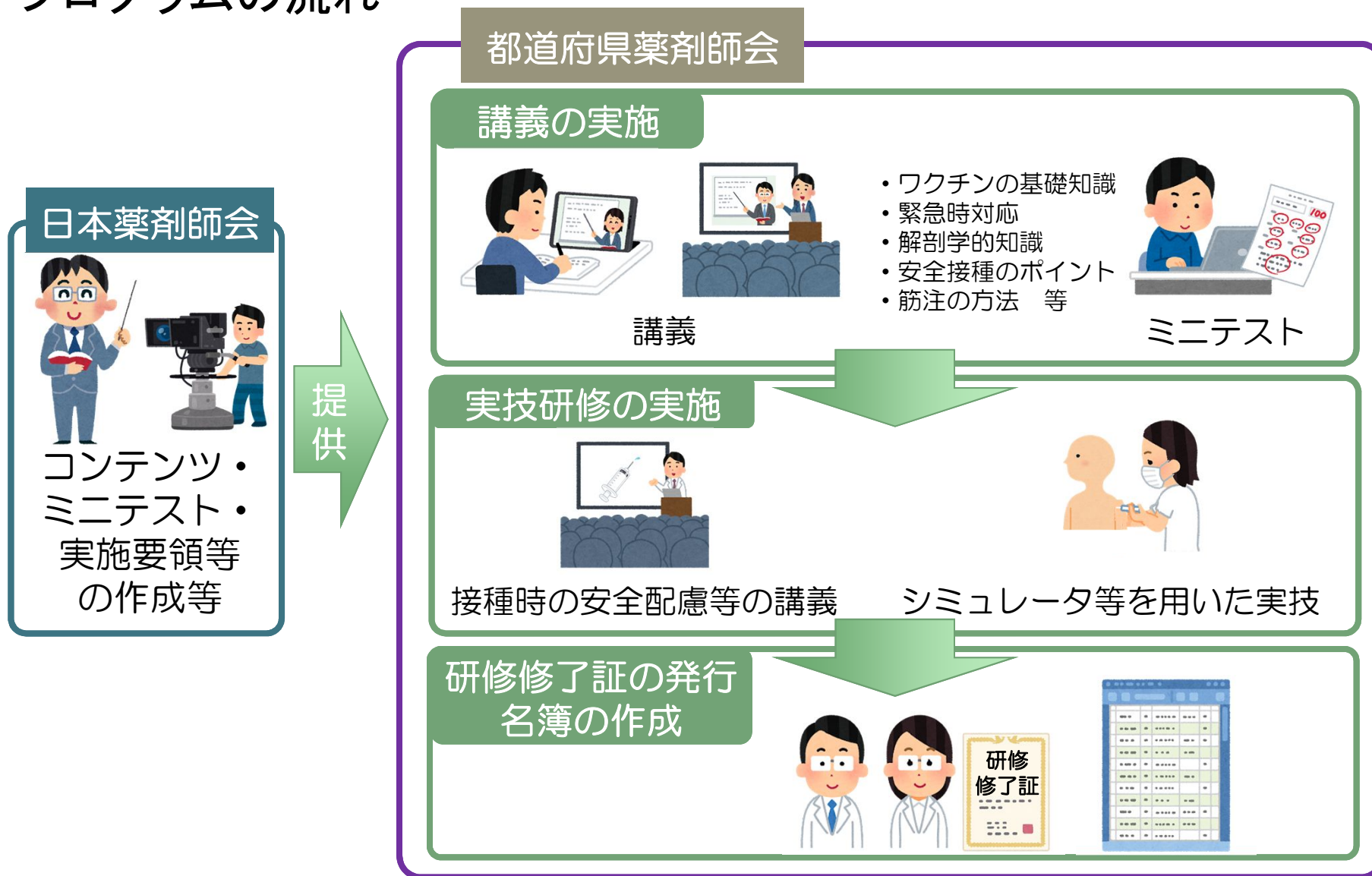


本会では、昨今の社会情勢に鑑み、薬剤師によるワクチン接種が必要になった際、即座に対応することができるよう、薬剤師のための予防接種研修プログラムを策定。

- 「薬剤師のための予防接種研修プログラム」の検討状況について
(令和3年7月1日. 日薬発第99号)
- 「薬剤師のための予防接種研修プログラム」開催要領の提供について
(令和3年8月5日. 日薬発第127号)

薬剤師のための予防接種研修プログラムの検討

プログラムの流れ



今後の薬剤師のために教育の充実が求められる事項

薬剤師に今後求められる業務や実習での課題を踏まえて、現行のコアカリ項目で充実・追加が必要だと考えていること

- 医療の担い手としての倫理観
- 患者とのコミュニケーションスキル
- 多職種連携
- ポリファーマシーへの対応
- 新薬、抗がん剤等、再生医療、最新のレジメン
- 個別医療への対応
- 介護分野
- OTC
- ICT活用
- 感染症教育
- 予防接種への対応

まとめ

- 薬剤師業務は転換期を迎えており、今回のコアカリ改訂は大変重要なものになる
- 国家試験対策に注力し過ぎず、臨床に出て活躍できるような薬剤師育成が強く求められる
- そのためには最新の臨床経験が豊富な教員による指導も重要
- 併せて臨床経験が豊富な実務家教員の育成も十分に行う必要がある
- 基礎科学についても重視すべきであり科学の理解が薄い薬剤師が養成されてはならない
- 薬局実務実習でも教育内容の充実を図るべく努めていきたい